



CFCI (Child Friendly Cities Initiative) とは、日本ユニセフ協会が推進する「子どもにやさしいまちづくり」の国際的な取り組みです。安平町は、子どもが意見を言い、社会に参加することを通じて自分らしく育つまちを目指し実践自治体として歩んできました。震災復興のシンボルである早来学園づくりから始まった「子どもの声を聴く文化」は、その後、町道整備やまちの制度設計にまで広がり、令和8年度には子どもの休む権利を保障する全国的にも珍しい制度の運用へと発展しています。



日本初「子どもにやさしいまちづくり事業実践自治体」への歩み

1. 取り組みのきっかけ

「こども環境学会2017大会」にて、当時の瀧町長とこども園園長（現井内教育長）が登壇し、住民・こども園・小学校・行政が連携した「僕らの遊び場プロジェクト」について発表しました。これがCFCIに取り組む大きなきっかけの一つとなりました。

3. 実践自治体承認に向けた準備・検証プロセス

全庁的な連携体制を築き、子どもの権利状況を調査。日本共通の指標に町独自の課題（震災復興等）を加えた計画を立案し、子どもの意見を反映した学校再建などを実践しました。ルーブリック評価による自己評価結果を住民に開示するPDCAサイクルを回しています。

CFCI実践自治体一覧



2017

2018

2018
2021

2021

2. CFCモデル検証作業の委嘱

実践自治体としての承認を受ける前に、安平町は約2年間にわたる検証期間を経て、日本独自のモデル構築に貢献しています。
・2018年10月 安平町を含む5自治体が、日本ユニセフ協会から「日本型子どもにやさしいまち（CFC）モデル検証作業」の委嘱を受けました。

4. 日本初の「CFCI実践自治体」への承認

2年間の検証作業と自己評価の結果が、日本ユニセフ協会の「CFCI第三者評価特別委員会」によって審査されました。2024年12月からは第2期目がスタートしています。



安平町のCFCIを支える、3つの重なり

土台となる推進体制があり、そこから権利保障の制度が生まれ、子どもの日常の中に実践が根づいています。



追分の学校を考える会

将来の追分地区の学校を考えるために、小中学生を対象にコンセプトづくりに対し意見聴取を実施



日常の実践と意見聴取

早来学園の開校プロセス

子どもたちの学校を考える会への参画のほか、校名、校章、制服、ジャージのデザイン選定に直接参加し、学校づくりに参加



あびら探究タイム

自分の「問い」を起点に、調べ・考え・表現することを繰り返す総合的な学習の時間。子どもの主体的な学びを支えています。



幼保小架け橋プログラム

幼児教育と小学校教育をつなぐ接続期のプログラム。遊びを通じた学びの経験を小学校へと自然につなげ、子どもが安心して新しい環境へと踏み出せるよう支えます。



権利を保障する制度

年5日の「子ども休暇制度」

令和8年4月開始。子どもが理由を持って主体的に休みを選び、休む権利を保障する先進的な試み。

小中学生が年間5日間、自分の意思で学校を休むことができる安平町独自の制度。子どもと保護者が対話しながら休む日を決めることで、子ども自身が「休む権利」を主体的に行使する経験を積むことができます。

ルールメイキングプロジェクト

子どもたちが身近な校則やきまりについて話し合い、必要に応じて自分たちの手で見直していく取り組み。早来学園で実施しており、大人と子どもが対話しながらより良い仕組みをつくっています。



推進体制と基盤



オンラインプラットフォーム

子どもの意見聴取オンラインプラットフォーム「あびらみらいボイス」の導入により、子どもの声を聴く文化とインフラを構築しています。

あびらCFCI研修会

町職員研修や教職員など教育関係者を対象に子どもの権利や意見表明に関する理解を深めるためフリー・ザ・チルドレン・ジャパンから講師を招き実施しています。



CFCIを支える安平町の「遊び」

豊かな自然を活かした遊びの「機会・場所・ノウハウ」を提供し、幼少期から主体性や非認知能力をのびのびと育む土台となっています。





あびたまなっちゃん

2023年度早来学園9年生がまちの課題解決に向けて考えてくれたよ

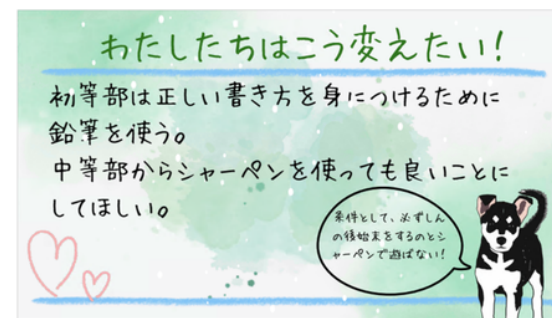
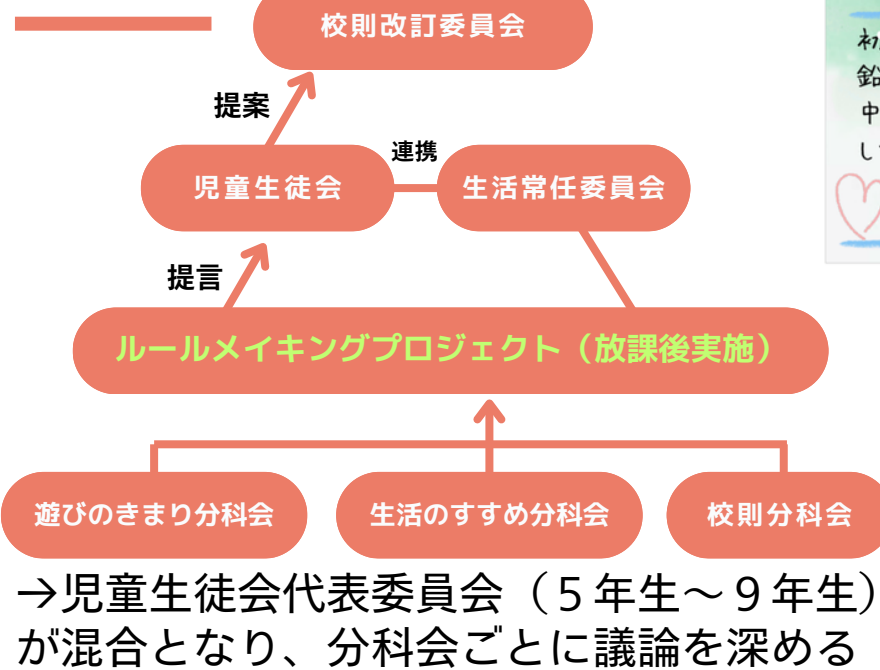
安平町のCFCIの取り組み

学校づくりへの参加から、身近なルールを変える経験、そして休む権利の保障
安平町の子供たちは、様々な場面で「自分の声がまちを動かす」実感を通り重ねてきました。
子どもが意見を言える場をつくる。その声を、大人が受け止める。この積み重ねが、子どもたちの「社会は自分たちとともにある」という感覚を育むと考え、様々な取り組みを行っています。

ルールメイキングプロジェクト ～身近なきまりを、自分たちの手で～

早来学園では、校則や学校のきまりを生徒自身が見直す「ルールメイキングプロジェクト」が行われています。
「なぜこの校則があるのか」を話し合い、必要に応じて自分たちの手で変えていく経験を通じて、子どもたちは「社会は誰かが決めるものではなく、自分たちでも変えられる」という経験を得ています。
保護者や先生などの大人と児童生徒が対話によって課題を深掘りしながら、より良い仕組みづくりにも繋がっています。

制度概要



早来学園では、シャープペンシルは中等部からしか使えないきまりがありましたが、児童生徒と先生が「なぜそうなのか」を対話で掘り下げた結果、筆圧の発達が理由のひとつであることが分かりました。さらに話し合いを重ね、小学5年生からは筆圧も十分に発達しているという結論に至り、使用が認められました。

安平町子ども休暇制度 ～休む権利を、対話とともに～

令和8年4月。安平町は、子どもが心身の状態に応じて学校を休むことができる「子ども休暇制度」をスタートさせました。
これまで、学校を休むことは「病気」や「特別な用事」といった理由が必要でした。しかし、全力で日々を過ごす子どもたちにも、大人と同じように「今日は自分を整えたい」「一人でゆっくりしたい」と感じる時があります。
この制度は、そんな「休息」や「家庭での豊かな体験」をウェルビーイングに資する大切な時間として町が公式に認めるものです。

制度概要

対象者	安平町内の全小中学生
付与日数	1人につき最大5日間
欠席の扱い	特別な休暇として扱う
申請期限	当日朝までに申請

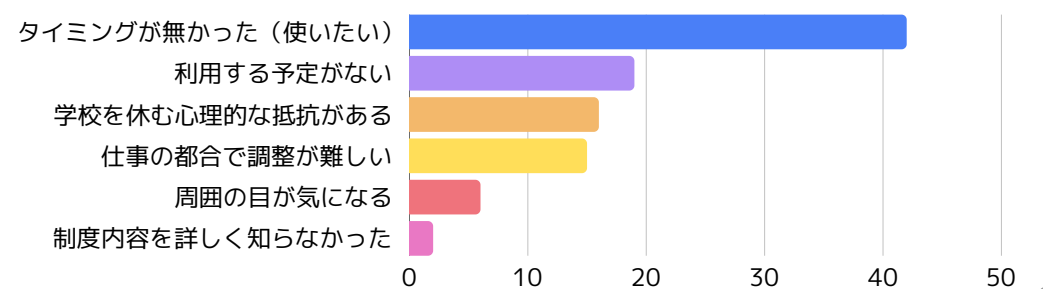
こんな時に利用



R8.6～7月実施 保護者アンケート結果

※R8.7.8時点
制度の利用率は**25.6%**（119名／465名）。利用した保護者の多くが「休息や旅行に有効活用できた」と肯定的に評価。利用していない家庭のうち、約6割が「機会があれば使いたい」と回答している一方で、仕事の都合や心理的な抵抗が主な壁となりました。引き続き、制度の周知による理解促進の対応が必要であると考えられます。

▼利用していない理由（複数回答）



早来学園建設&追分の学校を考える会プロセス ～みんなで学校をつくる経験～

早来学園

早来学園は、平成30年に発生した震災復興のシンボルであり、計画段階から子どもたちが参加してつくられました。「学校を考える会」「学校をつくる会」では子どもたちが大人と一緒に話し合いに加わり、学校の名称・校章のデザイン、制服やジャージのデザインについてもアンケートで意見を聴取。完成形を大人だけで決めるのではなく、使う側の子ども自身が考える機会を重ねてきました。



追分の学校を考える会

令和7年度、追分地区でも「追分の学校を考える会」が立ち上がりました。大人だけでなく中学生もメンバーとして参加し、追分の学校のあり方について意見を出し合っています。意見聴取にはオンラインプラットフォーム「あひらみらいボイス」も活用し、より多くの子どもたちが気軽に声を届けられる環境を整えています。学校の未来を、子ども自身が考え、語る場として機能しました。



追分の新しい学校のコンセプトを選ぼう！

安平町は、子どもが自分らしく生きられるまちであり続けるために、これからもCFCIの取り組みを進めていかなければなりません。子どもの声を聴き、子どもとともに考え、ともにまちをつくる——その歩みを、これからも続けていきます。